

教科： 国語

1. 受験勉強のやり方（何をすればいいか）

◎初めて出会う文章・問題を解いてみる。

→時間をかけて、しっかり読みこんで、「絶対100点！」という解答にする。

※※※ 感覚で答えるのではなく、根拠を明確にさせること ※※※ →丸付け

→間違った問題があれば、「なぜ間違ったのか」「なぜ答えがこれなのか」を分析する。

※1週間ほど時間をあけて、同じ問題をもう1度解く。満点をとれるまで続ける。

◎読書量をとことん増やす。（目標は1週間で3～10冊）

会った言葉たちは必ず味方になります。

出会った言葉の量で、文章の読みやすさや漢字の覚えやすさが全く異なります。

※教科書に載っている作者の本からはじめてみるべし。児童書は卒業すべし。

◎（持っている人は）新聞を読む。

新聞記者は日本語のスペシャリスト集団。絶対に裏切らない。

特に、各新聞の社説（朝日新聞「天声人語」、毎日新聞「余禄」、読売新聞「編集手帳」など）は、読むべし。余力があれば、毎日、その社説に対しての「新聞ノート」を自作しても素敵。

または、各新聞紙のトップ記事を100～200字程度に要約するのも効果的。

★「忘れないぞう」を最後の行まで、漢字を使って書く。何事も使い、継続できて、力になる！

2. 学習のポイント

説明的文章

・接続詞に注意をして読むこと。特に「しかし」などの逆接は注意。

・指示語に印をつけて、イコールで結ぶ。「それ」は「どれ？」を常に頭に置いておくこと。

・筆者の「問い」と「答え」を必ずおさえておく！

疑問があるから、筆者は筆を持ち、読み手に伝えたいことがあるから、筆者は筆を持ちます。

物語文

・描写こそ、読み応えあり！ どのような表情なのか、顔色なのか、風景は？

全ての言葉に意味を持たせて、筆者は物語を紡ぎます。

・「自分がこう思った！」ではなく、不特定多数の人がそう思うことを基準に答えよう。

漢字

・インプットとアウトプットの繰り返し。「手の運動」ではなく、「頭に入れる」作業を。

・“偏”と“つくり”で覚えていこう。

偏が同じ漢字、つくりが同じ漢字は、似た読み方や関連した意味をします。

★例えば、「編」と「偏」は同じ「へん」という読み。

つくりの「扁」は、「へん」という読みが共通しているから、同じ読み方をする。

★「編」は「あむ」とも読みます。「糸をつむいでいく」から「糸へん」が使われています

※これをわかっているとわかっていないでは、覚えやすさが違う

・その漢字を使って、例文がつけるとイメージがつきやすく、頭にも入りやすいです。

※正直、漢字に費やす時間があるならば、多くの文章を読む方が効率的。読みながら、漢字の学習は出来る！ 漢字の基礎固めは漢字プリントで出来ている※

3. 新たに準備するもの

・自分の力にあった文章量の問題集

苦手な人は、短い文章の問題集を。得意な人は、文章量の多い問題集を取り組みましょう。

